

第5次常滑市総合計画策定に係る
各種団体ヒアリング結果

常滑市 企画課

1 目的

第5次常滑市総合計画の策定に当たり、広範な意見や提案を計画づくりに反映できるように、さまざまな分野で活動している市内の団体に、まちづくりに関する現況と課題、今後の在り方などについて意見を伺うために、各団体に関わる分野のテーマを中心にヒアリングを実施した。

2 対象団体等

(1) 依頼団体

市からヒアリングの依頼をした各分野で活動している 30 団体について、平成 26 年 10 月～11 月末の間に実施した。

団体名	分野	団体名	分野
常滑市青少年問題連絡協議会	青少年	とこなめ焼協同協同組合	焼き物
とこなめ子育て支援協議会	子ども(子育て)	常滑陶磁器卸商業協同組合	焼き物
常滑市民生委員児童委員	福祉	中部臨空都市まちづくり協議会	中部臨空都市
常滑市老人クラブ連合会	福祉(老人)	あいち知多農業協同組合	農業
常滑市手をつなぐ親の会	福祉(知的障害者)	常滑市水産振興会	水産業
常滑市身体障害者福祉協会	福祉(身体障害者)	530とこなめ	ごみ減量、環境
公益社団法人シルバー人材センター	福祉(高齢者雇用)	常滑市防災ボランティア	防災
常滑市ケアマネ部会	福祉	常滑市子どもを守る会連絡協議会	子ども(交通安全)
常滑市社会福祉協議会	福祉・保健	男女共同参画ネットとこなめ	女性
常滑市食生活改善協議会	保健	常滑国際交流協会	国際交流
常滑市文化協会	文化	常滑市ボランティア連絡協議会	地域
常滑市体育協会	体育	常滑市市民協働推進委員会	市民協働
常滑市観光協会	観光	中部国際空港(株)	空港
常滑商工会議所	商工業	常滑青年会議所	青年
常滑市商店街連合会	商業	知多半島ケーブルネットワーク株式会社	情報・広報・地域

※順不同

(2) 公募団体

平成 26 年 10 月 23 日～11 月 28 日の間、市ホームページ及び市広報紙により公募を行い、申込みがあった 2 団体について、同年 12 月にヒアリングを実施した。

団体名	分野
坂井区区是高志会	地区
ペンペン草	福祉

※順不同

3 ヒアリング結果の概要

区分	問題点・課題等	要望・提案等
地域(市民生活)	<ul style="list-style-type: none"> 市全体の人口は増加しているが、北・南部地区は、人口が減少し、また、高齢化が進行している。(市域の中でも地区によって格差がある。) 「そっと見守りボランティア(普段の生活の中でできる範囲で地域の見守りを行う)」の活動を行う予定である。(社会福祉協議会) 近年、大型店が増え、また、地域によっては、地元の商店がなくなったり、御用聞きがなくなるなどしており、買い物難民が発生している。 保育園を通じてや子どもを巻き込んだイベントを開催するなどして、以前からの住民と新しい住民の橋渡しに努めている。(青年会議所) 市民に「自助」の意識が低く、「市がやってくれるだろう」という考えが大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 北・南部地区の人口減少及び高齢化の対策を考えてほしい。住みやすければ人は増えるはずである。 地域の中で「そっと見守りボランティア」などの活動をすることで防犯につながるのではないか。 買い物難民や新市民病院への移動手段として地域公共交通を充実してほしい。 町内会の加入率を増やすには、転入等の手続きの際にもっとPRをすべきである。 民生委員だけでは、目が行き届かないところがあるので、高齢者サポーターを増やしてほしい。 今後は、「自助」、「共助」が重要になってくるため、市のできる範囲を示し、市民等にお願いしたいことを明示した方が良い。
地域(都市環境)	<ul style="list-style-type: none"> 常滑駅ビルのスーパーが閉店し、常滑駅前が寂しくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家対策を進めてほしい。
健康	<ul style="list-style-type: none"> 市内には糖尿病の患者が多く、食育の重要性を啓発する必要がある。 食育として、(親子、男性)料理教室等を実施している。(食生活改善協議会) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康のために子どもの頃から食育することが重要である。 高齢者の健康づくりを推進することが重要である。
子ども	<ul style="list-style-type: none"> 保育園や小学校施設の老朽化が激しい。施設面での私立のこども園との差が大きい。 私立のこども園が増えたことで、民生委員や地域との関わりが薄れてきている感じがする。 子ども医療費助成に関して、「他市は無料」や「手続きが煩雑」などの意見がある。 保育園児と老人クラブ合同の交通訓練を実施しており、世代間交流につながっている。 子どもの数が、地域によって差が生じている。一部の地区だけが増えすぎてしまうと、健全育成等の面で目が行き届かなくなる可能性がある。 スクールガードはあるものの、参加が自由であるために来たり来なかったりがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路について、通学路交通安全推進会議が開催され、地域において危険か所の確認を行い関係機関に申し出た。通学路のペイント、歩行者優先表示などについて改善していく予定である。 若い世代が力をつけ、今後の子どもの育成などをしていければ、常滑が良くなっていくのではないか。 道徳などの分野で教育の支援ができればと考えている(青年会議所) 地域の中で「そっと見守りボランティア」などの活動をすることで防犯につながるのではないか。(再掲：地域(市民生活))

区分	問題点・課題等	要望・提案等
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> • 買い物代行サービスは、口コミによる情報に限られており、利用者が増えていない。(シルバー人材センター) • 市全体の人口は増加しているが、北・南部地区は減少しており、また、高齢化が進行している。(再掲：地域(市民生活)) • 南陵地区は自分で買い物できる店等が無く困っている。ヘルパー等を利用して買い物等をしている。 • 保育園児と老人クラブ合同の交通訓練を実施しており、世代間交流につながっている。(再掲：子ども) • 高齢者が社会へ参画する仕組みづくり(就業機会の確保)、生きがいづくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の健康づくりを推進することが重要である。(再掲：健康) • 独居老人に対する買い物代行サービスの普及を図ってほしい。 • 高齢者は自分の目で見て買い物をしたいものである。市内の移動販売があるとありがたい。 • コンビニにおいて配送サービスを行っているところがある。そういったサービスが増えるとよい。 • 市内に高齢者向けのサロンはあるが、もっと「買い物に行ける。」など、生活の一部としてのメリットが欲しい。また、サロンに行くための移動手段が無い人がいる。 • 高齢者の買い物弱者(買い物難民)対策や新市民病院への移動手段として地域公共交通を充実してほしい(利用しやすい小型のバス、介助者付きの巡回バス、デマンドタクシーなど)。 • 今後、労働人口が減少していく中で、高齢者や女性を労働力の一員としていくことが重要になる。 • お金のない人でも入所できる、自己負担の少ない特別養護老人ホームがほしい。
障がい者	<ul style="list-style-type: none"> • 入所施設やショートステイが無い。障がい者の親が仕事をするための環境づくりにおいても必要である。 • 障がい者が自立するため、働く場の確保や就労支援、生活の場(グループホーム)の整備、移動手段の確保が必要である。 • バスの運賃は、半額になるものの、他の自治体では無料のところがある。 • 障がい者の意見を聞く場やコミュニケーションを取れる場が必要である。 • 障がい者が社会に出て、自立して暮らすには、教育が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 障がい者や地域福祉への理解の向上に努めていきたい。 • 相談員の増員など相談体制の充実を図ってほしい。 • 福祉に係る人材育成は重要である。 • 新市民病院は、障がい者も利用しやすい環境整備をしてほしい。聴覚障害者に病状や診療結果が伝わるよう手話通訳者を置いてほしい。 • 障がい者など災害弱者の命を守る対策をとってほしい。災害発生時に全ての人に情報が届くようにしてほしい。

区分	問題点・課題等	要望・提案等
ごみ	<ul style="list-style-type: none"> • ごみ袋の有料化により、ごみの減量化に一定の成果が出ている。 • 協働により市民の力を引き出していくことが重要である。 • 新たな焼却場ができると、ごみの分類などが変更になる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ごみの減量化に関する今後の取組を検討し、大容量のごみ袋導入などの具体的な方策を示すことが重要である。 • ごみの減量化に係る運動の周知、啓発、教育を続けていくことが重要である。 • ごみに関する相談などが身近なところでできる環境を作るべきである。 • 市民と市が共にものごとを進めるに当たっては、市民の意見を吸い上げ、取り入れることが重要である。 • ボランティアグループに知恵を出してもらい、市民と市とで協働していくべきである。 • 中長期的な計画、ビジョン及び目標を持つべきである。
防災	<ul style="list-style-type: none"> • 地区の防災訓練は、地区によって実施内容に差がありすぎる。 • 市民に「自助」の意識が低く、「市がやってくれるだろう」という考えが大きい。(再掲：地域(市民生活)) • 防災対策は、市の様々な部署に関わることであり、市内部における連携を強化して取り組む必要がある。 • いざという時に対応できる仕組みや体制づくりが重要である。 • 他の地域における震災発生以降、災害発生時の連絡ツールの確保、他地域の青年会議所や行政との連携強化に取り組んでいる。(青年会議所) 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害ボランティアに関して啓発していきたい。 • 「防災リーダー」と「防災ボランティアコーディネーター」は役割と性格が違うため、養成講座は別々で実施すべきである。 • 今後は、「自助」、「共助」が重要になってくるため、市のできる範囲を示し、市民等にお願いしたいことを明示した方が良い。(再掲：地域(市民生活)) • 障がい者など災害弱者の命を守る対策をとってほしい。災害発生時に全ての人に情報が届くようにしてほしい。(再掲：障がい者) • 市職員に対して、防災に関する意識付けをするべきである。
防犯	<ul style="list-style-type: none"> • 「そっと見守りボランティア」の活動を行う予定である。(社会福祉協議会)(再掲：地域(市民生活)) 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の中で「そっと見守りボランティア」などの活動をすることで防犯につながるのではないかと。(再掲：地域(市民生活))
空港・中部臨空都市	<ul style="list-style-type: none"> • 空港や中部臨空都市は、常滑市にありながら、そうでない(別世界のような)感じがする。 • イオンモールができることにより、中部臨空都市と既存の市街地との格差が広がる恐れがある。 • 地域に愛され、観光客・インバウンドに愛されるまちづくりが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 空港・中部臨空都市と地域をつなげていきたい。市と商工会議所等関係機関との意見交換の場があると良い。 • 中部臨空都市から既存の市街地へ観光客等を誘導していけるとよい。 • 中部臨空都市を観光地としてアピールしていくためにも、キャッチフレーズがほしい。 • 地域に愛され、観光客・インバウンドに愛されるまちづくりがしたい。

区分	問題点・課題等	要望・提案等
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・まち並み(景観)を保全することが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観の保存においては、統一性を保つことが大切である。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、大型店が増え、また、地元の商店がなくなったり、御用聞きがなくなるなどしており、買い物難民が発生している。(再掲：地域(市民生活)) ・南陵地区は自分で買い物できる店等が無く困っている。ヘルパー等を利用して買い物等をしている。(再掲：高齢者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物難民や新市民病院への移動手段として公共交通を充実してほしい。(再掲：地域(市民生活)) ・高齢者の買い物弱者(買い物難民)対策や新市民病院への移動手段として地域公共交通を充実してほしい(利用しやすい小型のバス、介助者付きの巡回バス、デマンドタクシーなど)。(再掲：高齢者) ・道路、鉄道等の整備を進めてほしい。
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化が進行し、規模が縮小している。 ・親元就農が少なく、新規就農者が多い。 ・地元の農家が減少しており、地域外の人を受け入れざるを得ない状況になりつつある。 ・農地面積に対する担い手が少なく、耕作放棄地が拡大している。 ・農地中間管理機構の在り方が変わってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の農家を増やしていきたい。 ・市外の人を拠点常滑市に移してもらえるとありがたい。 ・今後、地域外の人や企業の参入を検討する必要があるかもしれないが、できれば地域の人が担えると良い。 ・農地の集約化による有効活用や農産物のブランド化を進めることが重要である。
漁業	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業の担い手(後継者)の確保は大きな問題である。 ・担い手育成のための研修制度があるが、定着しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさり漁場の整備などにより、水産資源を確保してほしい。 ・坂井海岸(干潟)を生かした漁業(観光産業)の育成に取り組んでほしい。
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の商店街が高齢化や廃業などで衰退しており、再活性化は難しいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への商店、飲食店、販売店等の出店を促進してほしい。
常滑焼	<ul style="list-style-type: none"> ・焼き物業界は縮小傾向にある。 ・焼き物関係の組合員数・後継者の減少が激しい。技術を継承していかなければならない。人材育成にも取り組む必要がある。 ・セラモールも厳しい状況に陥っている。人を呼び込む要素が少なく、商品が売れないから後継者も現れない。販路の開拓が必要である。 ・市として、観光立市か産業立市かどちらの軸で行くのか読み取れない。 ・“産業としての焼き物”から、“陶芸としての焼き物”としていくなど、どのようにして生き残っていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市と焼き物業界が連携し、常滑の顔である常滑焼が、より価値のあるものになり、繁栄するようにしていきたい。 ・焼き物は「観光」の側面もあるため、その部分も含めて市と連携を深めていきたい。 ・常滑は産業観光であると思う。ベースの産業をしっかり振興をして、方向付けをしてほしい。 ・「産業の再興」「常滑といえば常滑焼」というイメージを定着させることが重要である。 ・学校教育の中に常滑焼に関わることを取り入れてほしい。

区分	問題点・課題等	要望・提案等
観光	<ul style="list-style-type: none"> • 情報発信が不足している。六古窯の他の地域はプロモーションが上手である。 • 焼き物に関する観光資源（やきもの散歩道、とこなめ陶の森、セラモール等）をどのように売り出していくかが重要である。 • やきもの散歩道は観光地であるにもかかわらず飲食店が少ない。店を営んでいる人がどれほど観光地としての意識をもっているかが不明である。 • まち並み(景観)を保全することが重要である。(再掲：景観) 	<ul style="list-style-type: none"> • 常滑焼の付加価値を高める(ブランド化)などして、情報を発信していくことが重要である。 • 景観の保存においては、統一性を保つことが大切である。(再掲：景観) • 市と観光協会と市民が一体となって観光地としてのまちを作っていかなければいけない。 • 新規参入の店が、空き家を利用できるような空き家対策が必要である。 • イオンモールができることなどから増加が見込まれる外国人観光客(インバウンド)をどのように取り込んでいくかが重要である。
雇用		<ul style="list-style-type: none"> • 市内において若い人が働く場所を増やしてほしい。
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツをする施設が少ない。 • 市民運動会が廃止されたり、マラソン大会が開催されていないなど、市民がスポーツをする機会が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツの推進による健康増進を図ることが重要である。
文化	<ul style="list-style-type: none"> • 伝統文化の担い手(後継者)がいない。担い手確保が課題である。 • 文化・芸術を将来につないでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 若いころから文化・芸術に触れ、感じられる仕掛け・環境づくりが重要である。市の収蔵品をもっと市民の目に触れさせるべき。
国際化	<ul style="list-style-type: none"> • 国際化推進計画において事業主体を市としている施策は、実施できていないものが多い。 • 教育委員会、生涯学習にも国際交流はつながっている。 • IWCAT(とこなめ国際やきものホームステイ)は終了してしまったが、そのようなニーズは多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • イオンモールができることなどから増加が見込まれる外国人観光客(インバウンド)をどのように取り込んでいくかが重要である。(再掲：観光) • 空港があるまちとして、もっと国際的な活動ができると良い。他都市との姉妹都市提携は行った方が良いのではないか。 • 空港に関する防災や防疫に取り組むべきである。観光客に対する対応など。 • 観光客増加に向けて外国人受入体制を充実してほしい。

区分	問題点・課題等	要望・提案等
協働・ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> • 食・健康・防災は最優先の課題だと感じている。 • 防災をテーマに取り組んでいるものの、なかなか住民が関わってこない。 • 協働により市民の力を引き出していくことが重要である。(再掲：ごみ) • 協働とって、何もかもボランティアに依頼するのはいかがかと思う。 • ボランティアのリーダー養成は、なかなか難しい。 • 以前に比べボランティアの形態が変わってきた。“福祉系”よりも“地域づくり系”が活発になっている。また、リタイヤ組がメインとなりつつある。 • 市町によってボランティアのサポート体制が違い。常滑市はサポートがあまりなかったために自主的な組織になってきた。その一方で、各ボランティアがバラバラである。 • 市職員における協働の意識が低い。積極的に市民に近寄り(説明会や懇談会など市民に顔が見えるようにする)、連携を図ることが重要である。 • 市民に「自助」の意識が低く、「市がやってくれるだろう」という考えが大きい。(再掲：地域(市民生活)、防災) 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民と市が共にものごとを進めるに当たっては、市民の意見を吸い上げ、取り入れることが重要である。(再掲：ごみ) • ボランティアグループに知恵を出してもらい、市民と市とで協働していくべきである。(再掲：ごみ) • 個人のボランティアと組織のボランティアがあるが、個人ボランティアをどう上手く使っていかかが重要となる。 • 高齢化の進行を嘆くのではなく、高齢者を主体として考えていけば良いのではないか。 • ボランティアは、あまり市から表彰されないが、表彰などして認めてあげることも大事ではないか。 • 今後は、「自助」、「共助」が重要になってくるため、市のできる範囲を示し、市民等にお願いしたいことを明示した方が良い。(再掲：地域(市民生活)、防災) • 市内のボランティア間の繋がりが持てると良い。
男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> • 男女共同参画社会に係る周知・啓発が必要である。 • 保育園等の子どもを預ける場の充実や周知などを行い、女性が働きやすい環境づくりが重要である。 • 男性の男女共同参画の意識が低い。 • 女性の管理職がまだ少ない。 • DV(ドメスティックバイオレンス)の相談体制について、常滑市の場合、専門の相談員が常駐しておらず、職員が窓口となるが、異動で変わってしまうため継続性が保たれにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 小学校の中・高学年でジェンダーの教育をすると効果的ではないか。 • 会議などへの女性の登用を積極的に行ってほしい。 • 今後、労働人口が減少していく中で、高齢者や女性を労働力の一員としていく必要がある。(再掲：高齢者)
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> • 市は、あらゆるものを単発で整備等している。複合的な施設やイベント開催などが必要である。 • 今後は、人材の取り合いになり、人材確保の問題が発生してくる 	<ul style="list-style-type: none"> • いかにマネジメント力を身につけるかが重要である。人材の教育が必要になる。
会員について	<ul style="list-style-type: none"> • 会員数が減少している。 • 会員の高齢化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 会員の加入促進のための取組やPRをしてほしい。

区分	問題点・課題等	要望・提案等
総合計画	<ul style="list-style-type: none"> • 総合計画について、市民への周知や啓発を行うことが重要である。 • 第4次総合計画は実施できていない施策が多い。総合計画を作ることも大切だが、実現しないとイケない。 • 市職員が総合計画をしっかりと理解しなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 総合計画策定において大切なことは、方針をしっかりさせる(明確にする)ことである。 • 総合計画には、できないことを記載すべきではない。 • 団体等の意見を吸い上げ、それを踏まえた総合計画をつくるべきである。
行政	<ul style="list-style-type: none"> • 組織が縦割りであり、部署間の横のつながり、連携ができていない。改善していく必要がある。 • 防災対策は、市の様々な部署に関わることであり、市内部における連携を強化して取り組む必要がある。(再掲：防災) • 市は、PDCA 及び経過報告が出来ていない。 • 市職員における協働の意識が低い。積極的に市民に近寄り(説明会や懇談会など市民に顔が見えるようにする)、連携を図ることが重要である。(再掲：協働・ボランティア) • 市民に「自助」の意識が低く、「市がやってくれるだろう」という考えが大きい。(再掲：地域(市民生活)、防災、協働・ボランティア) • 都市化していく中で、魅力のある市でありたい。他市町と比べて何が欠けているのか考える必要がある。常滑は焼き物だけが魅力ではない。魅力あるものをアピールしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市の財政状況が厳しいのであれば、予算を使わずに知恵を絞って取り組むことが重要である。 • 市職員に対して、防災に関する意識付けをするべきである。(再掲：防災) • 補助金について、バランスよく行き届いているのか見直したらどうか。 • 市の広報について、市民に見てもらえる紙面づくり等の工夫が必要である。自動翻訳された内容をチェックしてほしい。適切な内容としてほしい。 • 市民と市が共にものごとを進めるに当たっては、市民の意見を吸い上げ、取り入れることが重要である。(再掲：ごみ、協働・ボランティア) • 市の計画づくりなどにおいて、団体も企画の段階から会議に参加の上意見を出すなど、市と団体で連携していきたい。また、そうした意見は、広報などにより市民に示すべきである。 • 団体に対しての市としての考え方や取組方針を明確にしてほしい。 • 今後は、「自助」、「共助」が重要になってくるため、市のできる範囲を示し、市民等をお願いしたいことを明示した方がよい。(再掲：地域(市民生活)、防災、協働・ボランティア) • 中長期的な計画、ビジョン及び目標を持つべきである(再掲：ごみ) • 魅力のあるものをアピールしていく取組が必要である。 • 空港関連従業員の居住地、生活環境、雇用確保、子育て支援、また、旅客への救急や安全・安心面など、行政サービスの充実を期待したい。